

環境への取り組みの歴史

(注) 鉄道車両及びバスについては「2003年環境報告書」P58～59をご参照ください。

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
1962年 3月			米国ガーウッドとの技術提携により塵芥収集車「ロードバッカー」を開発、生産。後に「フジマイティ」と改称
1966年 5月		オールアルミエンジンを実用化	
1973年 8月		樹脂材料の材料表示規定制定(業界ガイドラインは1991年に決定)	
1977年 3月		新型「レオーネ」“53年排出ガス規則”に対応するSEEC-7システム	
9月		故紙の混入による防振シートのリサイクル	
1985年 1月			CHVエンジン3型式を発表(EH11、EH15、EH21)
10月			電動式塵芥収集車「EV405」を開発
1986年 11月		樹脂製バルブロッカーカバーを開発し、軽量化を実現	
1987年 2月		世界で初めて自動車用電子制御式無段変速機「スバルECVT」を実用化、市場に導入	
1990年 8月	「環境問題改善対策プロジェクト」発足	全国スバル特約店にカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の設備を開始	
1991年 4月	「SEF委員会」発足。Safety：安全、Emission：排出ガス、Fuel economy：燃費		
10月	「リサイクル委員会」発足。(1997年に「リサイクル技術開発委員会」、1999年に「リサイクル推進委員会」に改称)	フレキシブル燃料エンジンを東京モーターショーにて発表	
1992年 4月	「環境安全技術部」発足		OHVエンジン搭載発電機3型式を発表(2KW、2.8KW、4.1KW)
5月		塗装済みバンパーの内外装部品へのリサイクルに自動車業界初めての成功	
9月		日本で初めての樹脂製のインテークマニホールドを開発	
11月		特約店へのカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の配置を完了	
1993年 1月		物流会社と共同で、東京、神奈川地区より使用済みバンパーの回収を開始	
3月	「地球環境保護に関する取り組み計画」制定。「総合環境委員会」発足。「SEF委員会」を発展させて「技術環境委員会」にならび、「工場環境委員会」発足		
1994年 4月		カーエアコンの冷媒をCFC12からHFC134aに切り替え完了	
1995年 1月			CARB 排出ガス規則対応凡用エンジン生産を開始
2月	田園工場、埼玉製作所工場棟竣工。4月操業開始		
4月		電気自動車「サンバーEV」を発売	
6月		環境にやさしい新塗膜保護剤を開発。「レガシィ」「インプレッサ」に本格採用	
8月			低公害CNG塵芥収集車を納入開始
9月			全国初のゴミの貨物輸送のため、ゴミ輸送用コンテナ及びコンテナ輸送車両を川崎市に納入
10月		筒内噴射エンジン、ハイブリッド・カーを東京モーターショーにて発表	
1996年 2月		新塗膜剥離技術「ロール圧延法」を開発、実用化し、バンパーからバンパーへのリサイクルを開始	
3月			独自開発の新型ヘリコプターメインロータシステムFBR(富士ペアリングレスロータ)初飛行に成功
4月	「地球環境に関する2000年計画」策定		
10月			ごみ有料化に対応した「コンテナ収集計量システム」を開発販売
7月	「環境総合推進室」発足		焼却灰溶融プラントを開発
9月			高層ビルゴミ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」を初納入
1998年 2月	「使用済自動車リサイクルイニシアティブ・自主行動計画」策定		
4月	「環境方針」を策定		
6月	環境パンフレット「人と社会と地球の調和を目指して」を発行		
10月		自工会のシステムを活用した特定フロン(CFC12)の回収・破壊取り組みの全国展開終了	2サイクルエンジン代替のランマー用4サイクルOHVエンジンを発表(EH09D)

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
11月	スバル・いすゞオートモーティブインク(SIA、米国)においてISO14001を認証取得		
1999年 3月	群馬製作所においてISO14001を認証取得		
5月	埼玉製作所においてISO14001を認証取得		
6月		ペットボトルの内装部品へのリサイクル	
7月	・宇都宮製作所・車両環境事業本部においてISO14001を認証取得 ・第1回関連企業環境問題連絡会議を開催		
10月	群馬製作所に「環境部長会」発足		
2000年 1月		生産工程で発生した塗装済バンパー廃材を「プレオ」の量産バンパー材料に再利用開始	
3月	東京事業所の焼却炉を停止	使用済バンパー回収を東北地区にも拡大し、全国体制を構築	高層ビルゴミ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」が平成11年度産省環境立地局長賞を受賞
8月		新型「インプレッサ」発売、全モデルが低排出ガスの認定基準を達成	
9月	1999年度の環境保全活動の実績をまとめた環境報告書を発行		
10月		廃車から回収した窓ガラスをグラスウール防音材にリサイクルを開始	
11月			・スバル型風力発電システムを公開 ・低騒音新型塵芥収集「LPO」型を発売
12月	群馬製作所矢島工場の焼却炉を停止		
2001年 3月	群馬製作所でゼロエミッションを達成		
5月			ロビン凡用エンジンEXシリーズを発売、低排出ガス、低騒音化、低振動化を図る
6月	2000年度の環境保全の実績をまとめた環境報告書を発行		
9月	・宇都宮製作所の焼却炉を停止 ・埼玉製作所の焼却炉を停止		
10月		東京モーターショーに次世代ハイブリッドミニ「HM-01」を出展	
2002年 1月			スバル小型風力発電システム平成13年度新エネ大賞「資源エネルギー庁長賞」を受賞
2月		新型「フォレスター」を発売、全モデルが2010年度燃費基準を達成するとともに良・低排出ガス車(G-LEV)に認定される	
3月	宇都宮製作所、埼玉製作所においてゼロエミッションを達成		
5月	「環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を公表	NEC・富士重工の共同出資による自動車用電池開発会社を設立	
6月	「2002 環境報告書」を発行		
7月		フロン引取・破壊に関わる業務を(財)自動車リサイクル促進センターに委託	
10月		「レガシィB4CNG」(天然ガス自動車)を限定的に市場導入	
11月			航空機定期修理における無公害塗装剥離剤への転換について「防衛調達基盤整備協会賞」を受賞
2003年 4月	埼玉製作所においてISO14001 定期審査受審		「ASR 前処理分別システム」を開発
5月		・「レガシィ」をフルモデルチェンジ「NEWレガシィ」を発売 ・2.0GT spec.Bを除く全モデルで2010年燃費基準を達成。2.0L SOHCエンジン搭載車で平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成	「無公害塗装剥離剤の開発」が(社)日本航空技術協会の協会特別賞を受賞
6月	・「2003 環境報告書」を発行 ・宇都宮製作所においてISO14001 定期審査を受審		
7月	・六連星をコーポレートシンボルに設定 ・群馬製作所矢島工場にスバルビジターセンターを開設		(株)オギハラと共同開発の「焼却灰溶融炉」が(財)廃棄物研究財団の技術認定を取得
8月		・「レガシィB4 CNG」日本一周に挑戦 ・スバルモビリティ技術プレゼンテーション実施	
9月	東京事業所においてゼロエミッションを達成		
10月	平成15年度リデュース・リユース・リサイクル(3R)推進功労者等表彰において、群馬製作所が会長賞を受賞	・シーケンシャルシリーズハイブリッドのシステムを公開 ・スバルブランドメッセージ「Think. Feel. Drive」を設定	
11月			「レガシィ」2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞
12月		・自動車部品の新加工技術「ハードブローチ工法」を開発 ・新型軽自動車「スバルR2」を発売。24.0km/L(10-15モード)燃費を実現し(R)、平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成(Rとi)	
2004年 1月	本社、東京事業所がISO14001 認証取得		